

パンナム月世界旅行予約証



写真1：「月世界旅行予約証カード」



社労士事務所プラム アンド アップル
顧問 属増 聡

世界で最も経験ある航空会社

かつてアメリカにパンアメリカン航空(以下パンナム)という航空会社があった。「世界で最も経験ある航空会社」を標榜し、世界中に路線を張り巡らせ、アメリカのナショナルフラッグキャリアとして常に時代をリードしてきた。

わが国でも、大相撲千秋楽のパンナム杯、あるいは人気テレビ番組『兼高かおる世界の旅』のスポンサーとしても知られていた。また、東京とニューヨークを結ぶ直行便パンナム 800 便で多くの日本人ビジネスマンが夢と希望を胸にアメリカへと旅立って行ったものである。1963年3月、ニューヨーク・マンハッタンにパンナムビル(現メットライフビル)が完成し、当時としては世界最大のオフィスビルとして、多くの日本企業もここにオフィスを構えアメリカ進出の拠点としていた。

希望に満ちあふれていた時代

69年7月21日、北海道の山奥の炭鉱街で高校3年生だった筆者は、アポロ11号が人類を初めて月面に到達させるテレビ中継を感動しながら夢中で見入っていた。そしてすぐに拙い英文で、パンアメリカン航空あてに手紙をしたためた。「貴社が将来、月世界までの定期路線を開通した暁にはぜひとも搭乗したいので、予約

を申し込みたい」と。

2週間ほど経ってニューヨークから送られてきたのが「月世界旅行予約証カード」(写真1)。

筆者は当時知る由もなかったが、アポロ11号の成功に先駆けてパンナムは月旅行受付本部を前年、すなわち今からちょうど50年前の68年に開設し、世界中からの月旅行予約希望者にこの予約確認カードを送付したらしい。日本からだけでも数千通の応募があったそうだ(『BRUTUS』2012年2月15日号)。

しかしながらパンナムは月世界航路を開通することなく、91年12月4日倒産し、64年の歴史に幕を閉じる。

パンナム倒産から20年後の2011年9月から、1960年代を舞台に4人のスチュワーデスの仕事と恋を描いた『PAN AM / パンナム』という大作ドラマが全米で放映され、日本でも翌12年3月にIMAGICA BSで放映された(写真2)。

ケネディ大統領の下で、アメリカが希望に満ちあふれていた1960年代初頭の時代を忠実に再現した秀作であったが、なぜか「シーズン1」(1クール)で終了してしまったのはいかにも残念だった。



写真2：『PAN AM / パンナム DVD-BOX(7枚組)』発売中
¥21,000 + 税
発売元：IMAGICA TV
販売元：東宝
©2011 Sony Pictures Television Inc. All Rights Reserved.